

『適応行動論』試験（担当：安藤清志）

2005年7月22日(金) 3時限

試験時間90分

持ち込み一切不可

問題兼解答用紙 両面一枚(追加は認めない)

次の問1～問5から2つを選んで回答しなさい。選んだ2つの問題のうち、一つの問題の解答を表面に、もう一問の回答を裏面に書くこと。(問の順番は問わない)。

---

(問1) 「利用しやすさのヒューリスティック」、「代表性のヒューリスティック」とは何か。それぞれ、例(自分で考えたものでもよい)を2つずつあげて説明しなさい。

(問2) 自己呈示の5つの方略(取り入り、自己宣伝、示範、威嚇、哀願)について、とくに社会的勢力の観点から考察しなさい。

(問3) サークルXに対してあまり好意的でないA君がいる。このA君に対して、サークルXが好きになるように、できれば加入するように働きかけたい。どのような方法を用いると効果的か、認知的不協和理論に基づいて考察しなさい。

(問4) 他者の援助を必要としていると思われる人が、自分からは援助を求めないことがある。どのような要因が援助要請行動を抑制しているか考察しなさい。

(問5) 「返報性の規範(norm of reciprocity)」とは何か。この規範の影響によって生じるとと思われる行動を2つ以上あげて説明しなさい。

---

(編集後記)

前もって試験問題の大まかな出題部分を指定していて、なおかつ5問中2問を答えればよいとも言うっていたので、試験勉強はある程度ヤマがあたることも多かったかもしれませんね。

記述量が多いほど高得点につながり、成績が絶対評価型なのでがんばった人にはかならず優が来ます。さすが仏教官。